3 CPL を飲用している悪性卵巣腫瘍患者の QOL について－QOL 評価表と語りからの分析－

○本江朝美[1)]，廣田明子[1)]，平吹登代子[1)]，村上優[2)]，長戸康和[3)]
昭和大学医療短期大学看護学科[1)]，東海大学医学部婦人科[2)]，東海大学医学部形態学部門[3)]

【目的】環状ポリ乳酸(Cyclic Polylactate;CPL)は、抗腫瘍効果を発揮することが報告されている。そこで、手術不適応の癌性疼痛を訴える悪性卵巣腫瘍の患者に6ヶ月以上のCPL長期間投与を試み、CPL飲用に伴う Quality of Life(QOL)の変化を QOL 評価表と面接で得られた患者の主観的な経験（語り）の両側面から検討した。

【方法】1.対象：79 歳，女性。悪性卵巣腫瘍、肺気腫。既往に腸閉塞あり。告知済み。体重 27kg。CT 上 11×12×14cm 大の腫瘍認め，腹水・胸水貯留。癌化学療法および手術は不適応とされ、治療は対症療法のみ。2.方法：CPL 飲用と QOL 調査に関するインフォームドコンセントを行ない同意を得て平成 11 年 11 月 18 日から CPL の飲用を開始した。開始時と飲用後約 1 ヶ月ごとに厚生省がん研究助成金による栗原らの「がん薬物療法における QOL 評価表」による自記式調査、及び面接調査を実施した。面接は全てテープ録音し逐語録作成の上、QOL の活動性、身体状況、社会生活、精神・心理状況、全体的 QOL の各カテゴリー別に内容を抽出し、分析した。

【成績】CPL 飲用に伴う QOL 推移は、QOL 評価表において身体状況の変化を殆ど認めなかったが、活動性、社会面、精神面、全体的 QOL、総得点で著しい向上を認めた。面接による患者の語りでは、CPL 飲用 5 週めで痛みをはじめとする諸症状の緩和を認め、13 週めには痛みの完全消失が明らかとなった。さらに飲用 13 週めから腫瘍を触る感じが変化しはじめ、飲用 27 週で腫瘍の軟化を自覚するとともに、CPL 飲用効果への確信と大病を抱えても幸せとの表現が認められた。

【結論】1.悪性卵巣腫瘍の一事例における CPL 飲用効果として、痛みの消失と腫瘍の軟化が示唆された。2.諸症状の緩和と腫瘍の軟化は、患者の QOL 改善に寄与すると共に、病気や死の受容をすすめ、CPL への信頼に影響したと推察された。